

## 『つながる』ということ

教頭 矢嶋 真行

今、新型コロナウイルスに世界中の人たちが苦しんでいます。毎日のように感染者数が報道され、この数か月を振り返ると、「緊急事態宣言」「医療崩壊」「経済活動の自粛」「ステイホーム」などのことばが国内を駆け巡りました。豊玉高校も臨時休業になりました。その後学校は再開したものの、県高総体をはじめとする多くの行事が中止や延期になりました。しかし、社会が危機的状況にあっても、難局に立ち向かった人たちも多くいました。例えば、都市部における飲食店の「テイクアウト」は今までの出前とは違い、より多くの店と客とそれを運ぶ人たちがアプリを通してつながって、変化をとげました。また、医療用の使い捨てガウンの製造には、休業中の航空会社の社員をはじめ、多くの人々が参加しました。このように、これまであまり見られなかった仕組みやサービスは「つながる」ことを通して生まれました。そして、この背景には、社会の現状を何とかしたいという切迫した思いと同時に、この世の中に役に立ちたいという信念もあったと考えられます。

脳神経外科医の林成之氏は自らの著書の中で、脳がもつ本能について解説しています。それによると、脳には「生きたい」「知りたい」

「仲間になりたい」という3つの本能があり、その内の「生きたい」「仲間になりたい」という本能により、「世のなかに貢献しながら、安定して生きる」ことを脳が求めるのだそうです。人とつながり世の中に貢献する行いは、脳科学的に裏打ちされている行動であると考えられます。

現在、豊玉高校は「関わる力、日本一」をスローガンに掲げ、地域とのつながりを深める学びを進めています。例えば、今年度の1学年が取り組んでいるのは「舟グロー」です。これはかつて途絶えた和多都美神社の奉納行事です。2学年も対馬の産業に注目して、商品開発などに取り組んでいます。これらの地域学習は地域の方々による献身的な支援で成り立っています。実に感謝の思いでいっぱいです。地域を学ぶことの根幹は、地域の人とつながり、その思いにふれることにあります。生徒のみなさんはそのことを心に刻んで、豊玉高校でしかできないこの学びを大切にしてほしいです。そして、「つながり、貢献する」という、人間に本来備わっている力を発揮して、自分の将来を見つめてもらうよう願っています。



## PTCA除草作業 担当 江口

6月20日(土)絶好の草抜き日和の中、保護者の皆様、支援会議の皆様ご協力有難うございました。

学年対抗戦では、1年生が優勝しました。次回は10月10日(土)を予定しております。奮ってご参加ください。



## 島内企業説明会の様子

担当 佐藤



6月13日(土)に鶏知の美津島文化会館で島内企業説明会が開催され、12社の島内企業が参加しました。

新型コロナの影響もあり、いつもとは違う形での実施でしたが、生徒達は真剣に話を聞き、自分の将来について考えを深めていました。

## 3校対抗戦の様子 6月6日(土)、7日(日)

本年度、新型コロナウイルス感染拡大防止のため高総体は中止となり、その代皆試合として、対馬市では3校対抗戦が行われました。



《お知らせ》 期末考査が7月2日(木)～7日(火)の4日間の日程で行われます。今年度初めての定期考査です。

豊玉高校ホームページ

検索 豊玉高校

<https://www2.news.ed.jp/section/toyotama-h/>